

岩手県田野畑村における小学校統合後の地域活性化に関する 調査研究 (第1報) - 住民意識調査から -

浅 沼 道 成*

はじめに

全国的に少子化の進行にともない小学校や中学校の統合や高校の再編が進められている。岩手県においてもその例に漏れず、各市町村で小中学校の統合が確実に進んでいる。現実的に避けられない状況であり、田野畑村における小学校統合に関するアンケート調査(注1)では、8割の住民が小学校の統合を進めるべきだと答えている。また、進めるべきではないと回答した4%の住民は、その理由として自由記述で通学の距離が遠くなるという物理的な問題と地域の活気がなくなるとか、伝統が切れてしまうなどと感情的な不安を挙げていた。

田野畑村では、少子化にともない平成22年4月から6つの小学校を田野畑小学校1校に統合することになり、統合後の地域のあり方に対して教育委員会から「地域総合型クラブ」構想(注2)が立案されている。この地域総合型クラブの具体的な内容や実施方法を検討している中で、平成19年度に岩手大学地域課題解決支援事業として統合後を視野に入れた田野畑村のスポーツ少年団を対象とした調査研究¹が実施された。地域総合型クラブは、統合後の地域に組織されるクラブであり、子ども達の居場所からスポーツ活動や自治会活動など広く地域における小学校が果たしてきた機能を盛り込んだものとして構想されている。しかし子ども達のスポーツ活動としてのスポーツ少年団(野球、バレーボール、ミニバスケットボール)は、すでに、小学校を超えた合同的な活動をしており、統合的な動きをしていた。結果としてスポーツ少年団が地域住民のネットワーク形成の役割を果たしておらず、地域総合型クラブとリンクするためには何らかの工夫をしていかなければ難しいと結論づけている。

特に筆者は、田野畑村教育委員会の「地域総合型クラブ」構想に対して、現在、文部科学省と財団法人日本体育協会が中心に、政策的課題として全国展開され、岩手県でも取り組まれている「総合型地域スポーツクラブ」の育成(注3)とその政策目的であるスポーツを通じた地域づくりや住民の健康増進とリンクさせて検討を進めてきた経緯があり、田野畑村が抱えている小学校統合後の地域づくりという政策的課題を含めた検討を求められてきた。

よって、その最終目的に向けた一連の研究として本稿が位置づけられ、田野畑村の政策的課題の「地域総合型クラブ」育成に向けた方向やその可能性をにらみながら、小学校統合後の地域づくりに対して提言するための第1報である。すなわち、田野畑村の地理的歴史的な視点から小学校統合後の地域に根ざした地域づくりへ貢献できることを目指し、特に、平成22年実施される田野畑村の小学校統合にともなう小学校がなくなるという地域の不安に対して、統合後の地域づくりの方向に対して基礎的知見をえることが本稿の目的である。

* 岩手大学人文社会科学部 人間科学課程

また、本稿は最終目的の過疎化が進み地域の地域活性化に向けた地域づくりに対する提言に向けたスタートであり、この数年にわたり田野畑村へ通い、得られた資料を総合的にまとめて今後発表をしていく。

研究方法

1. 手順

本研究において平成19年度より研究データを収集するために田野畑村教育委員会の協力の下に、小学校の校長先生や教育長を含めた職員の方々に対する聞き取り調査や文献や資料の収集を実施してきた。これらの基礎データに加えて、平成20年度には教育委員会と協議を進めながら、集落が比較的密集している「島越地区」と田野畑村で一番面積が広く集落が点在している「沼袋地区」を調査対象地とし、その地区の自治会長の承諾を受けて調査を実施した。

2. 調査概要

① 対象地区：岩手県田野畑村島越地区および沼袋地区

② 調査方法(注4)

(A) 配表調査（郵送回収）

対象者：各世帯の世帯主（世帯主以外も可）

調査方法：田野畑村教育委員会の依頼の形で、事前に自治会を通して各世帯に配表、郵送形式で回収。さらに面接調査の際、返送の有無を尋ね、未返送の場合は回答協力を依頼調査員が記入漏れを点検して回収（一部はその場で面接調査）。なお、催促に応じて面接調査以降に返送されたケースもある。

(B) 面接調査（現地調査）

対象者：世帯の悉皆調査で、訪問の際に各世帯の20歳以上の方1名に回答協力を依頼し、さらに可能な場合は2名に依頼。

現地調査：平成20年9月12日（金）～14日（土）

調査員：岩手大学人文社会科学部学生30名（人文社会科学研究科修士課程2名を含む）

③ 質問項目

(A) 配表調査：世帯ごとの地域住民活動参加の状況・地区の変化についての認知・地区帰属意識・小学校統合についての意見・地区住民活動の評価および世帯構成

(B) 面接調査：（世帯の）子どもの有無・小学校統合についての意見・伝統芸能の評価・余暇活動へのニーズ(資料1)

3. データ

本稿では、面接調査で得られたデータを使用して検討を行った。また、フェースシートとして性別、年代、職業、居住地区について回答を求めた。

表1および表2から、島越地区では、100名（男性35名・女性65名）、沼袋地区では、78名（男性35名、女性43名）に回答が得られ、その内訳は50歳以下が20.8%であり、比較的高齢者からの回答が多かったことがわかる。また、実際に家を訪問した際、空き家の家が多く見られたことが印象的であり、家を残したまま他への移住や漁業などで長期不在者が多いということであった。

表1 回答者の性別と世代(%)

		～50歳	50代	60代	70代	80歳～
島越地区	男性(N=35)	17.1	20.0	20.0	28.6	14.3
	女性(N=65)	23.1	30.8	20.0	15.4	10.8
沼袋地区	男性(N=35)	25.7	0.0	31.4	11.4	31.4
	女性(N=43)	16.3	23.3	18.6	25.6	16.3
全体(N=178)		20.8	20.8	21.9	19.7	16.9

表2 回答者の職業(%)

		主婦 (家事)	臨時 パート	雇用者 (勤め)	職人・運 転手など	自営業	漁業	農業	仕事はし ていない
島越地区	男性(N=35)	2.9	0.0	20.0	2.9	7.7	31.4	5.7	31.4
	女性(N=65)	55.4	20.0	7.7	0.0	1.5	7.7	1.5	6.2
沼袋地区	男性(N=35)	0.0	0.0	22.9	14.3	8.6	0.0	14.3	40.0
	女性(N=43)	34.9	9.3	20.9	0.0	2.3	0.0	9.3	23.3

表3は、回答者における子どもの有無である。現在、小学生がいる家庭は両地区合わせて12.4%、小学校前の子どもがいる家庭を含めて、全体の19.7%と、2割が小学校と現在、あるいは将来にわたって関わっていく家庭であった。逆に言えば66.9%の家庭で、すでに子育てが終わっていたということになる。

表3 子どもの有無(%)

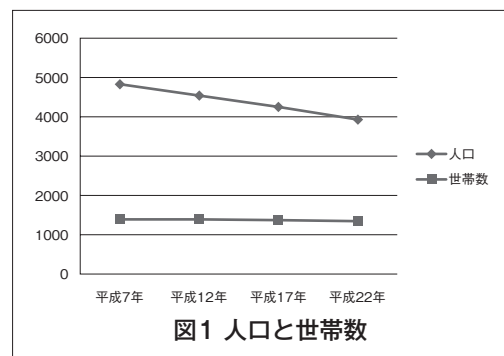
	小学生 がいる	小学生前 がいる	小学生以上 がいる	20歳以下 がいない	NA
島越地区(N=100)	16.0	5.0	12.0	63.0	4.0
沼袋地区(N=78)	7.7	10.3	10.3	71.8	0.0
全体(N=178)	12.4	7.3	11.2	66.9	2.2

結果及び考察

1. 田野畑村の概況

田野畑村は、岩手県の北東部の太平洋に面した村であり、大部分が山間部に位置し酪農や水産業が盛んなところである。小学校は、田野畑(413)、沼袋(242)、羅賀(230)、机(123)、浜岩泉(211)、島越(190)の6地区にあり、平成22年度から田野畑地区の小学校にすべてが統合されることになっている。()内の数字は、平成19年の世帯数を示している。

図1は、人口と世帯数を示し、平成22年度に関しては推定値である。毎年人口の減少が見られ平成22年には4千人を切るこ



※田野畑村総合計画²より著者が作成

が予測されている。また、すでに65歳以上の人口が30%を超えている村である。

2. 小学校統合に関する意見

表4は、小学校統合で地区の小学校がなくなると地区にどのような影響があり、どのような取り組みが必要か複数回答で聞いた結果である。両地区とも「地区としてどのように対応しても、小学校がなくなれば地区の活気は薄れる」と6割の住民が考え、5割の住民が「小学生が地区で活動する仕組み」や「大人や高齢者とふれあえる仕組み」が必要だと考えている。すなわち、小学校が統合する（地区から小学校がなくなる）ことが、地区にとって大きな問題であり、それに代替できる何らかの仕組みが必要だと認識していた。しかし、島越地区よりも沼袋地区の男性では、「課外活動などしっかりやれば、特に地区で活動する必要がない」や「これまで通りでよい」などと危機感を持たない人も多い傾向にあり、60歳以上で、特に80歳以上の住民に多かった。この結果は、田野畑村における地域差や世代差が存在していることを示している。また、男女においても違いが見られる項目もあり、住民のそれぞれのとらえ方が異なることがわかった。また、配票調査の結果から島越地区において島越小学校の運動会へ毎年に参加世帯が7割以上であり、小学校統合後の新たな活性化の機能を担う仕組みが重要であると考えられた。詳細な検討は別稿に譲る。

表4 統合後の影響と取り組みの必要性(%)

		小学生活動 の仕組み必要	課外活動あ れば不必要	これまで通 りでよい	触れ合える 仕組み必要	統合で活気 薄れる	取り組みば 薄れない	その他	わからない
島越地区	男性(N=35)	51.4	8.5	20.0	57.1	65.7	34.3	11.4	0.0
	女性(N=65)	33.8	13.8	20.0	43.1	55.4	21.5	9.2	9.2
沼袋地区	男性(N=35)	54.3	31.4	40.0	57.1	65.7	20.0	8.6	2.9
	女性(N=43)	39.5	16.3	23.3	58.1	46.5	23.3	2.3	4.7
島越地区	～50歳(N=21)	42.9	0.0	4.8	66.7	81.0	14.3	0.0	4.8
	50代(N=27)	33.3	11.1	14.8	25.9	63.0	8.5	11.1	0.0
	60代(N=20)	7.5	0.8	4.2	10.0	5.8	7.5	0.8	1.7
	70代(N=20)	45.0	30.0	40.0	55.0	60.0	35.0	15.0	0.0
	80歳～(N=12)	33.3	16.7	16.7	33.3	50.0	16.7	25.0	25.0
	～50歳(N=12)	37.5	12.5	12.5	31.3	37.5	18.8	18.8	6.3
	50代(N=16)	20.0	10.0	0.0	60.0	30.0	40.0	0.0	0.0
沼袋地区	60代(N=19)	12.4	5.2	7.2	14.4	12.4	3.1	1.0	0.0
	70代(N=15)	40.0	26.7	33.3	60.0	60.0	26.7	0.0	6.7
	80歳～(N=18)	55.6	33.3	55.6	61.1	72.2	16.7	0.0	5.6

表5は、統合後も、住民のまとまりが薄れないように、子ども達も含めた住民活動が出来る新たな組織化の案に対する意見を聞いた結果である。両地区、性別を通じて「地区の活性化に役立つ」と捉えていることがわかるが、同時に沼袋地区では「これからはどんなことをやっても地区が活性化するのは無理」や「よい考えだが、地区で実施するのは困難」と考えている住民も多い傾向にあった。また、両地区とも「実行しないとわからない」「住民の積極性次第」と他人事のように消極的（悲観的）な姿勢が伺われた。この結果も、地区の特性が見られ、特に沼袋地区の悲観的な姿勢が際だった。これは、集落が集中的な島袋地区と分散型の沼袋地区という形態的な違いによるところが要因と考えられる。しかし、新しい組織（仕組み）に対して期待感も読み取られ、今後の政策的な取り組み方や内容を慎重に進めていく必要があると考え

られた。

表5 統合後の新しい組織の構築に対する意見(%)

		活性化に 役立つ	よい考え だが実施 困難	実施しな いとわか らない	新しい組 織はいら ない	地区活性 化は困難	役場の取 り組み次 第	住民の積 極性次第	その他	わからな い
島越地区	男性(N=35)	48.6	22.9	51.4	5.7	14.3	20.0	51.4	8.6	2.9
	女性(N=65)	46.2	21.5	41.5	9.2	12.3	27.7	38.5	1.5	10.8
沼袋地区	男性(N=35)	54.3	48.6	34.3	22.9	37.1	25.7	45.7	8.6	0.0
	女性(N=43)	48.8	32.6	37.2	18.6	20.9	32.6	53.5	7.0	11.6

教育委員会では、小学校統合後の新しい仕組みとして「地域総合型クラブ」を構想しているが、村全体のコンセンサスを得る段階にまでまだ達していないようであった。そのような状況の中で「地区としてどのような取り組みをしていくのか」という情報を入手しているか聞いてみた結果が表6である。結果として両地区とも8割近くの住民がそのような情報を聞いていないという状況にあった。小学校統合の平成22年が間近に迫っており、早急な政策の方向や具体的な案を住民に提示したり、住民からの積極的な意見を聞いたりする場をセッティングしていく必要があると考えられる。

表6 統合後の取り組み(%)

	よく聞いて いる	ある程度は 聞いている	はっきりし ない	まだ聞いて いない	その他	関心がなく わからない
島越地区(N=100)	6.0	16.0	3.0	71.0	2.0	2.0
沼袋地区(N=78)	0.0	10.3	3.8	85.9	0.0	0.0
全体(N=178)	3.4	13.5	3.4	77.7	1.1	1.1

3. 余暇活動のニーズ

地域づくりのヒントを得るために、地域住民のライフスタイルを日常生活の余暇活動ニーズから検討した。日常生活の余暇活動に対するニーズを検討するために、「もっと時間があればいい」と思うことや「今よりもっとやりたいと思う」という2つの側面から検討した。

表7は、現在の生活の中で「もっと時間があればいい」と思うこと、表8は、現在の生活の中で「今よりもっとやりたいと思う」とことについて非制限複数回答で答えてもらった結果である。

もっと時間があればという設問に、島越地区では、女性よりも男性に高い関心が見られ、「生涯学習する時間」「くつろげる時間」「家族と一緒の時間」の3つの項目に高い傾向を示した。特に、島越地区の50歳以前のニーズが高く、世代の視点も重要な要因であることがわかった。また、沼袋地区でもそれほど高くはないがこの3項目に高いニーズが見られた。特徴的な傾向として沼袋地区において男性の5割以上が、女性の3割弱が「村外に出かける時間」が選択されていた。これは、沼袋地区という散在した集落形態から外志向が元々あると考えられるが、様々な角度から検討をする必要がある。

表8は、今よりもっとやりたいと思うこととして「仲間と趣味や生涯学習の活動をする」が両地区とも男女合わせて高い傾向にあった。また、沼袋地区の男性において島越地区よりも多くのニーズに選択する傾向が見られ、特に「地区・村外の人々との交流」に高い傾向が見られた。それ以外に沼袋地区では「近所や地区の人と過ごす」というニーズにも高い傾向が見られ、

地区内外を問わず、人との交流を求めていることがわかる。

しかし、この余暇のニーズに対して「特にない」という項目に、沼袋地区の女性に多いことが気にかかるところである。日常の生活に追われ、多様なニーズを求める余裕がないのか、元々消極的悲観的な志向を持っているのかさらなる検討が必要である。

表7 もっと時間があればいいと思うこと(%)

		家族と一 緒の時間	家事・育 児の時間	仕事をす る時間	くつろげ る時間	運動する 時間	村外に出 かける時 間	会合・行 事参加の 時間	生涯学習 をする時 間	その他	特にない
島越地区	男性(N=35)	34.3	11.4	2.9	45.7	17.1	25.7	28.6	45.7	5.7	11.4
	女性(N=65)	30.8	16.9	13.8	33.8	27.7	18.5	18.5	35.4	4.6	10.8
沼袋地区	男性(N=35)	31.4	5.7	11.4	22.9	17.1	54.3	14.3	28.6	0.0	11.4
	女性(N=43)	23.3	7.0	9.3	23.3	16.3	27.9	7.0	32.6	0.0	32.6
島越地区	～50歳(N=21)	28.6	19.0	4.8	61.9	38.1	33.3	9.5	71.4	4.8	4.8
	50代(N=27)	29.6	7.4	11.1	40.7	29.6	11.1	25.9	48.1	0.0	7.4
	60代(N=20)	4.2	1.7	0.8	2.5	3.3	3.3	4.2	3.3	3.3	1.7
	70代(N=20)	40.0	25.0	15.0	4.0	15.0	35.0	25.0	20.0	0.0	15.0
	80歳～(N=12)	41.7	16.7	16.7	25.0	8.3	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0
沼袋地区	～50歳(N=16)	50.0	12.5	0.0	50.0	6.3	43.8	0.0	31.3	0.0	6.3
	50代(N=10)	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0
	60代(N=19)	3.1	1.0	3.1	2.0	4.1	9.3	5.2	10.3	0.0	4.1
	70代(N=15)	26.7	13.3	20.0	26.7	20.0	33.3	6.7	13.3	0.0	26.7
	80歳～(N=18)	22.2	0.0	11.1	11.1	16.7	44.4	11.1	27.8	0.0	27.8

表8 いまよりもっとやりたいと思うこと(%)

		近所・地 区の人と 過ごす	地域外の 人と過ご す	地域の子 ども達と 過ごす	仲間と趣 味や生涯 学習の活 動	仲間と運 動をする	仲間と海 や山に行 く	地区や村 のために 必要な活 動	他の地区 や村外の 人との交 流	その他	特にない
島越地区	男性(N=35)	17.1	20.0	22.9	34.3	17.1	28.6	22.9	31.4	8.6	20.0
	女性(N=65)	13.8	16.9	24.6	40.0	33.8	24.6	18.5	15.4	4.6	21.5
沼袋地区	男性(N=35)	48.6	31.4	25.7	40.0	28.6	37.1	37.1	45.7	2.9	11.4
	女性(N=43)	27.9	20.9	20.9	32.6	32.6	20.9	9.3	16.3	4.7	25.6
島越地区	～50歳(N=21)	9.5	9.5	14.3	52.4	33.3	28.6	19.0	14.3	4.8	9.5
	50代(N=27)	3.7	14.8	22.2	37.0	37.0	25.9	22.2	25.9	3.7	18.5
	60代(N=20)	4.2	4.2	5.0	5.0	5.0	3.3	3.3	2.5	1.7	1.7
	70代(N=20)	25.0	30.0	25.0	30.0	25.0	35.0	20.0	25.0	5.0	35.0
	80歳～(N=12)	16.7	8.3	33.3	41.7	0.0	16.7	16.7	25.0	8.3	41.7
沼袋地区	～50歳(N=16)	31.3	12.5	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	37.5	0.0	12.5
	50代(N=10)	20.0	10.0	20.0	10.0	50.0	30.0	10.0	10.0	10.0	20.0
	60代(N=19)	8.2	5.2	6.2	10.3	6.2	7.2	8.2	6.2	2.1	4.1
	70代(N=15)	33.3	26.7	33.3	40.0	33.3	26.7	26.7	26.7	0.0	26.7
	80歳～(N=18)	50.0	44.4	5.6	38.9	22.2	22.2	22.2	33.3	0.0	16.7

4. 伝統芸能の保存活動について

表9は、伝統芸能の保存活動が地区にどのような影響を与えると思うか聞いた結果である。

表9 伝統芸能の保存活動はどのように地区に影響するか(%)

		地区活動全 般が活発に	地区のまと まりが強く	世代間の交 流・連帯	地区への愛 着が強まる	地区への関 心が高まる	住民の楽し みが增える	その他
島越地区	男性(N=35)	40.0	40.0	54.3	48.6	40.0	45.7	17.1
	女性(N=65)	47.7	38.5	50.8	30.8	43.1	46.2	13.8
沼袋地区	男性(N=35)	51.4	62.9	42.9	57.1	40.0	48.6	11.4
	女性(N=43)	51.2	53.5	51.2	46.5	67.4	37.2	16.3

地区や性別に関係なく伝統芸能の保存（伝承）活動は、地区の活性化につながり、地域づくりに大きく貢献する要素であるという認識が高いことが伺える。特に、沼袋地区において「地区のまとまりが強くなる」「地区への愛着が強まる」「地区への関心が高まる」などに高く、肯定的な意見を持っていると考えられる。

地域総合型クラブを構想していく場合に、このような伝承活動が地域の活性化や子どもと大人（高齢者）の交流の場として機能していくことが考えられる。しかし、少子化が進む中で小学校統合後のある程度の期間は機能していくが、その後の地域づくり、村自体の次の世代の姿も描いておく必要がある。

まとめ

1. 小学校統合問題への対応策の一つの面は「統合の小学生に対する対応」であるが、これは該当する児童をもたない住民には必ずしも課題として重要視されていない。これに対してもうひとつの面は、統合により失われる「小学校の機能の代替」であるが、特に島越地区では島越小学校の運動会へ毎年参加する世帯が7割以上で、小学校の地区統合（活性化）の機能が大きく、統合後の機能代替が大きな問題となっている。いずれの地区でもたまたま小学校統合がきっかけになっているが、問題となっているのは地区の活性化自体である。

2. 「地域のシンボル」としての小学校の機能は代替不可能であり、小学校統合ともあいまって「地域が今後衰退してゆく」という過疎化の進行に対する悲観的な見方が多いが、島越地区では沼袋地区よりも楽観的な見方が強く、地区による違いが大きい。

3. 伝統芸能の機能・意義についても2つの地区の違いが大きく、沼袋の方が島越よりも機能・意義の肯定率が高い。伝統芸能の保存活動で知られている沼袋の甲地自治会の活動影響で、沼袋地区全体として肯定的な意見（「地区のまとまりが強くなる」「地区への愛着が強まる」「地区への関心が高まる」）の肯定率が高くなっていて、伝統芸能がシンボリックな意義をもち、地区の活性化に役立つことを示している。

4. ライフスタイルについて見ると、年齢による違いの方が大きく、より若い世代（50代以下）で「生涯活動」のニーズが強い。他方、地区による違いも大きく、島越地区では生涯学習のニーズが、沼袋では地区外・村外での活動のニーズが強い。以上の点から、地域活性化のためには、全住民参加型の活動と分化型の活動を組み合わせる必要があり、「クラブ活動」的な生涯学習の方式を充実させるなどの工夫が必要であろう。

5. 自治協議会・自治会は島越地区では実際上同一であるのに対して、沼袋地区では集落（自治会）によっても自治協議会と自治会の比重が違うなど、地区によって住民組織の活動も大きく違っている。地区のニーズの違いなどもあるので、統合問題への対応策も住民活動の活性化もその取り組みには、対象となる地区の特性、ライフスタイル・意識・ニーズに応じた工夫が必要である。

6. 住民活動の活性化に関しての住民の見方は「楽観・悲観・中立」と別れているが、そうした見方の違いを分析することにより、活性化の今後の方策に対するヒントが得られると思われる。

なお、本調査研究は、平成20年度さんりく基金「奨励研究」の助成をいただき実施したものである。

(2009年5月11日受理)

注1 平成19年5月に、田野畑村内全世帯を対象にしたアンケート調査である。有効回答数としては1409世帯に対して998世帯から回答が得られている。

注2 平成18年度の田野畑村「地域教育力再生プラン」として田野畑村教育委員会から「地域総合型クラブ」創設(案)が提案されている。小学校の統合後に、地域の教育力再生を目的とした自治会を取り込んだ新たな組織化を目指している構想である。

注3 2000年に文部省(現在の文部科学省)がスポーツ振興基本計画を発表した。その計画におけるスポーツ振興の3つの柱のうち、生涯スポーツ環境の整備充実方策として全国の市町村に少なくとも1つ以上、総合型地域スポーツクラブを育成するという政策課題を掲げた。総合型地域スポーツクラブとは、地域に根ざした多種目・多世代・自主運営などを特徴とするヨーロッパ型スポーツクラブである。

注4 この調査は、以下の手順で進められた。

- ・平成20年5月 現地調査の質問項目・現地調査計画の検討
- ・6月12日(木)＜第1回予備調査＞田野畑村教育委員会で小学校統合計画と住民説明会等の状況について聞き取りと資料収集
- ・8月11日(月)＜第2回予備調査＞対象地区の自治会代表者等と調査概要の説明および現地調査の宿舎等の打ち合わせおよび対象地区の状況の確認
- ・8月27日(木)＜第3回予備調査＞教育委員会で調査実施の打ち合わせ
- ・9月12～14日(金～日)田野畑村島越地区・沼袋地区現地調査実施
- ・9月18日(木)～ 調査集計・集計表作成
- ・10月 調査結果の分析・検討の実施
- ・11月 田野畑村教育委員会・対象地区関係者に単純集計結果の報告実施
- ・12月 調査結果の分析・検討の実施

参考・引用文献

- 1 斎藤 惇 岩手県田野畑村における小学校統合に伴う地域総合型クラブ設立への提言
岩手大学人文社会科学部特別研究 2007年
- 2 田野畑村 田野畑村総合計画 後期計画 平成18年度－平成22年度 2006年

資料 1

資料 1

鳥越地区用

地域活性化に関する住民意識調査

(岩手大学行動科学研究室)

[1] お宅に、小学校へ通うお子さん（一緒に暮らしているお子さん）がいますか。

- 1) 現在、小学生がいる
- 2) まだ小学校に入っていない子供がいる
- 3) 小学生以上の子（20歳未満）がいる
- 4) 20歳以下の家族はいない
- 5) その他（ ）

[2] 小学校の統合で鳥越小学校がなくなると鳥越地区にどのような影響があると思いますか。また地区としてはどのような取り組みが必要だと思いますか。

次の中で「そう思う」ものはいくつでも○をつけてください。

- 1) 鳥越地区の子供として小学生が地区のなかで活動する仕組みが必要だ
- 2) 子供達が小学校で課外活動などをしつかりやれば、特に地区で活動する必要はない
- 3) 地区の活動は、特に新たな取り組みをなくしても、これまで通りでよい
- 4) 子供たちや大人・高齢者などが触れあえるような新たな仕組みが必要だ
- 5) 地区としてどのような取り組みでも、小学校がなくなれば地区の活気が薄れる
- 6) 小学校がなくなっても、地区としていろいろ取り組みがあれば活気が薄れるようなことはない
- 7) その他（ ）
- 8) どのように考えたらよいかわからない

[3] 鳥越小学校が統合された後、地区としてどのような取り組みをするかについて、あなた（あるいはお宅のどなたか）は話を聞いたことがありますか。あてはまるもの一つ選んでください。

- 1) よく聞いている
- 2) ある程度は聞いている
- 3) 聞いたかことがあるかどうかはつきりしない
- 4) まだ聞いていない
- 5) その他（ ）
- 6) 関心がないのでわからない

[4] 鳥越小学校が統合されても小学校による住民のまとまりが薄れないように、地区の中で子供達も含めた住民がいろいろな活動をするような新しい組織（「集まり」）を作ってはどうか、という案がありますが、あなたはそうした案についてどう思いますか。

「そう思う」ものはいくつでも○をつけてください。

- 1) 実施には難しい問題はあるとしても鳥越地区を活性化するのに役立つ
- 2) よい考えだが、鳥越地区で実施するのは困難だ
- 3) とにかく実際に組織して実行してみないと良いかどうか分からない
- 4) 今までの住民組織でもやってみようで行けるので新しい組織は必要はない
- 5) これからはどんなことをやっても地区を活性化するのは難しい
- 6) 教育委員会など役場の取り組みが精でうまくいくかどうか分かれる
- 7) 住民が積極的になるかどうかで、うまくいくかどうかが決まる
- 8) その他（ ）
- 9) よく分からない

[5] 伝統芸能の保存活動は地区にどのような影響を与えますか。次のそれぞれについて、「そう思う」ものはいくつでも○をつけて下さい。

- 1) 行事への参加など、地区活動全般が活発になる
- 2) 地区のまとまりが強くなる
- 3) 世代間の交流・連絡がはかられる
- 4) 地区に対しての、愛着が強まる
- 5) 自分達の地域の歴史や特色など、地区への関心が高まる
- 6) 趣味・娯楽面で、住民の楽しみが増える
- 7) その他（ ）

[6] 次の中で、あなたが現在の生活で「もっと時間があればいい」と思うものに、いくつでも○をつけてください。

- 1) 家族と一緒に過ごす時間
- 2) 家事・育児などにかかる時間
- 3) 働く（仕事をする）時間
- 4) ゆっくりくつろげる時間
- 5) 運動（スポーツ）をする時間
- 6) 旅行・買い物などで村外に出かける時間
- 7) 会合や行事などに参加する時間
- 8) 趣味・習い事や生涯学習をする時間
- 9) その他（ ）
- 10) 特にない

[7] 次の中で、あなたが現在の生活で「今よりもっとやりたいと思う」と思うものに、いくつでも○をつけてください。

- 1) 近所や地区の人達と過ごす
- 2) 地区外の人達と一緒に過ごす
- 3) 地区の子供達と触れあう
- 4) 仲間と趣味や生涯学習の活動をする
- 5) 仲間と運動をする
- 6) 仲間と海や山などに出かけ自然に触れる
- 7) 地区や村のために必要な活動をする
- 8) 他の地区や村外の人々と交流する
- 9) その他（ ）
- 10) 特にない

[8] この調査について、何か感想がありましたらお知らせ下さい。

【自由回答：欄外などにも記入。「特にない」場合は、次のQ9へ進む】

[9] 最後に、あなたの年齢は次のどれに当てはまりますか。

- 1) ～50歳
- 2) 50代
- 3) 60代
- 4) 70代
- 5) 80歳～

[10] お仕事は、次のどれに当てはまりますか。

- 1) 主婦（家事）
- 2) 臨時・パート
- 3) 雇用手（勤め）
- 4) 独立の職人・運転手など
- 5) 自営（商店・民宿・工場）
- 6) 漁業
- 7) 農業
- 8) 特に仕事はしていない

[11] （調査員記入事項：性別 1) 男性 2) 女性）

*お礼と挨拶 「 ご協力いただきました、ありがとうございます。」

